

## 若手研究者の更なる活躍を促すための科研費の在り方について

- 我が国の研究力の更なる向上のためには、将来の研究の中核となるばかりでなく現在の研究現場において原動力となっている若手研究者の研究活動への一層の支援が重要。
- 科研費においては、幅広く若手研究者への支援を行っている若手研究（B）について、平成23年度に新規採択率30%を達成するとともに基金化を導入するなどの改善が図られてきた。

また、異分野連携や共同研究、人材育成等により研究グループが提案する研究領域の研究を格段に発展させることを目的として創設された「新学術領域研究」においても、若手研究者の育成等に配慮することとされている。
- 一方で、若手研究者を取り巻く環境については、研究機関における任期付職員の増加や研究支援者の不足等、依然として厳しい状況が続いている。
- こうした中で、優れた若手研究者が研究の道に進み、自立的・主体的に研究を行うことができる環境づくりを一層推進するためには、若手研究者を取り巻く厳しい環境を踏まえつつ、科研費においてどのような支援が可能か。
- なお、科学技術政策研究所による科研費論文の分析結果においては、試行的な分析結果であり、引き続き精査・分析が必要なものの、科研費の若手研究種目における被引用数トップ10%論文やトップ1%論文の割合が全研究種目の平均より高いとの結果が示されている（※別紙参照）。また、近年、若手研究（B）の応募件数は低下傾向で推移している。

[参考：近年の若手研究（B）の応募件数]

H21年度：23,355件	H22年度：22,817件	H23年度：22,688件
H24年度：20,867件	H25年度：20,330件	
- 若手研究者を異なる研究環境の経験等を通じて将来的に独立した研究者として育成することを目的とする特別研究員について、（独）日本学術振興会において科研費応募の重複制限の緩和に関する検討を行っているが、これについてどのように考えるか。
- その他、研究種目の在り方を含めた科研費制度における若手研究者支援に資する改善策について、どのように考えるか。

# WoS-KAKEN論文の研究種目ごとの特徴 (KY2005-2007)

- 直接経費1,000万円当たりのW-K論文数は、基盤(C)で5.8件、基盤(S)で1.4件である。W-K論文あたりのトップ10%論文やトップ1%論文の割合は、基盤(S)の方が高い。
- 若手研究は、W-K論文あたりのトップ10%論文やトップ1%論文の割合が、全種目の平均より高い。
- 前頁でみたように、直接経費あたりの論文数はKAKEN分野によって大きく異なる。したがって、ここに示した結果は種目内のKAKEN分野の構成にも、大きく依存すると考えられる。

	基盤研究(S)	基盤研究(A)	基盤研究(B)	基盤研究(C)	挑戦的萌芽研究 系統	若手研究(B)	若手研究(A)(S)	研究活動スタート 支援系統	全種目
インプットについての情報									
研究課題数	213	1,322	6,739	16,927	4,993	12,463	889	1,263	44,809
直接経費総額(100万円単位)	17,229	44,789	89,117	54,848	15,615	38,372	17,637	3,164	280,771
直接経費(研究課題あたり)(100万円単位)	80.9	33.9	13.2	3.2	3.1	3.1	19.8	2.5	6.3
アウトプットについての情報									
W-K論文数	2,370	8,178	23,511	31,912	5,293	13,326	2,583	973	88,145
W-K論文(トップ10%)数	342	938	2,276	2,364	489	1,435	355	151	8,349
W-K論文(トップ1%)数	39	94	208	195	36	130	34	19	754
研究課題あたりのW-K論文数									
W-K論文数	11.13	6.19	3.49	1.89	1.06	1.07	2.91	0.77	1.97
W-K論文(トップ10%)数	1.60	0.71	0.34	0.14	0.10	0.12	0.40	0.12	0.19
W-K論文(トップ1%)数	0.18	0.07	0.03	0.01	0.01	0.01	0.04	0.02	0.02
直接経費1,000万円当たりのW-K論文数									
W-K論文数	1.38	1.83	2.64	5.82	3.39	3.47	1.46	3.07	3.14
W-K論文(トップ10%)数	0.20	0.21	0.26	0.43	0.31	0.37	0.20	0.48	0.30
W-K論文(トップ1%)数	0.02	0.02	0.02	0.04	0.02	0.03	0.02	0.06	0.03
W-K論文に占めるトップ10%(1%)論文の割合									
W-K論文(トップ10%)数/W-K論文数	14.4%	11.5%	9.7%	7.4%	9.2%	10.8%	13.7%	15.5%	9.5%
W-K論文(トップ1%)数/W-K論文数	1.6%	1.2%	0.9%	0.6%	0.7%	1.0%	1.3%	2.0%	0.9%

注: 一部、KAKEN分野情報が含まれていない課題があるため、全種目の値は、前頁の全KAKEN分野の値と一致しない。

(注)途中結果であり、最終的な結果が変わる可能性がある。